

科目名	運動学演習						
科目名(英)	Seminar for Kinesiology						
単位数	2		時間数	60時間	担当者	大内田 由美	
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	病院に作業療法士として勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年生						
授業概要	・運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。(各関節の構造と機能、歩行) ・運動学で得た知識を用いて運動障害の分別ができるようになる。(変形、異常歩行) ・運動の学習について理解する。(運動学習)						
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				関節の運動を関節包内運動やバイオメカニクスの知識を用いて説明できる。	
	○	○				運動器疾患でみられる典型的な症状を正常な運動と比較し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1)中村隆一・齋藤宏・長崎浩:基礎運動学 第6版補訂. 医歯薬出版,2015. 2)嶋田智明・平田総一郎 監訳: 筋骨格系のキネシオロジー. 医歯薬出版,2012. 3)配布資料 参考文献: 1)Frank H Netter(相磯貞和訳): ネッター解剖学図譜. 丸善株式会社,2001. 2)I A Kapandji(荻島秀男監訳):カパンディ関節の生理学. 医歯薬						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	肩関節の構造と機能(上肢帯、肩甲上腕関節、胸鎖関節、肩鎖関節) 肩関節の構造と機能(烏口鎖骨間メカニズム、肩甲胸郭関節、第2肩関節)				資料・テキストを用いて復習	
	2	肩関節の臨床運動学 肘関節・前腕の構造と機能				Webテストの実施	
	3	肘関節・前腕の臨床運動学 手関節の構造と機能				Webテストの実施	
	4	手関節の臨床運動学 手指の構造と機能				Webテストの実施	
	5	手指の臨床運動学 手指の変形機序				Webテストの実施	
	6	上肢のまとめ 股関節の構造と機能(関節の構造、靱帯、関節の運動)				資料・テキストを用いて復習	
	7	股関節の構造と機能(股関節の安定に関与する因子) 股関節の臨床運動学				Webテストの実施	
	8	膝関節の構造と機能(関節の構造、膝蓋骨、関節半月、靱帯) 膝関節の構造と機能(関節の運動)				資料・テキストを用いて復習	
	9	膝関節の臨床運動学 足関節・足部の構造と機能				Webテストの実施	
	10	足関節・足部の臨床運動学 足の変形				Webテストの実施	
	11	体幹の構造と機能 体幹の臨床運動学				Webテストの実施	
	12	下肢のまとめ 正常歩行(歩行周期)				資料・テキストを用いて復習	
	13	正常歩行(歩行の決定因、床反力、歩行時筋活動) 異常歩行				Webテストの実施	
	14	運動学習(運動能力、学習の転移、運動パフォーマンス、運動技術、動機づけ) 運動学習(運動学習理論、運動療法で展開される運動学習の戦略)				Webテストの実施	
	15	全体のまとめ 定期試験				資料・テキストを用いて復習	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	○				20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	病理学						
科目名(英)							
単位数	2		時間数	30時間	担当者	自見 至郎	
実施年度	2020年度		実施時期	前期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学は、病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになることを最終目標とする。細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになることを目的とする。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。	
		○				様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。	
		○				細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書：医学書院 系統看護学講座 病理学(疾病の成り立ちと回復の促進1)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	細胞・組織・器官				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	病理学概論(病因と組織変化)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	内因と外因・病気の分類				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	先天異常、遺伝子・染色体異常				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	代謝障害と細胞および組織変化(変性と壊死)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	脂質、タンパク質代謝障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	タンパク質代謝における肝臓と腎臓の役割				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	ビリルビン代謝障害、循環障害1(充血、うっ血、貧血、虚血)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	循環障害2(血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	炎症、免疫				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	アレルギー				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	免疫不全、移植				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	腫瘍1				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	腫瘍2				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	整形外科学Ⅰ						
科目名(英)	Orthopedic SurgeryⅠ						
単位数	2		時間数	30時間	担当者	九州大学整形外科教室	
実施年度	2020年度		実施時期	前期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	整形外科領域の疾患・治療法を理解する。 ・作業療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・作業療法が関わる障害が、どのような疾患から起因するかを知る。 ・整形外科疾患の成り立ちを知り、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・整形外科疾患の症状を理解することで、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法に必要な医学情報、病気の成り立ちを説明できる。	
	○	○				整形外科疾患から起因する、作業療法が関わる障害について説明できる。	
	○	○				整形外科疾患の生理学的見解ができる。	
	○	○				作業療法領域に多い、整形外科疾患の症状を説明することができる。	
	○	○				作業療法の治療上での各疾患ごとのリスク管理を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書：標準理学療法学 作業療法学 専門基礎分野 標準整形外科学（医学書院）標準整形外科学（Standard Textbook）（医学書院）						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 整形外科基礎知識				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	2	第2章 運動器の評価及び検査法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	3	第3章 整形外科的治療法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	4	第4章 炎症性疾患(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	5	第4章 炎症性疾患(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	6	第5章 代謝・内分泌性疾患・退行性疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	7	第6章 先天性骨関節疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	8	第7章 循環障害と壊死性疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	9	第8章 骨・軟部腫瘍				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	10	第9章 神経・筋疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	11	第10章 脊椎の疾患(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	12	第10章 脊椎の疾患(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	13	まとめ				これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。	
	14	まとめ				これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。	
	15	まとめ				これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	内科学Ⅰ						
科目名(英)	Internal medicineⅠ						
単位数	2		時間数	30時間	担当者	安藤 廣美	
実施年度	2020年度		実施時期	前期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年						
授業概要	・内科疾患の症状を理解することで、治療上でのリスク管理を理解する。 ・作業療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。						
授業形式	講義：	○	演習：		実習：		
					実技：		
						※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○				理学療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 参考文献：私が投稿し掲載された医学に関する諸文章						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	序説・第1章 内科学の概念 内科的診断				生理学教科書も併せて予習しておく。	
	2	第2章診断学 内科的診断の意義と目的 診察・検査				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	3	第3章症候学 発熱・食思不振・悪心・易感染性・意識障害				まとめプリントを使用して復習しておくこと。	
	4	第3章症候学 めまい・浮腫・頭痛・ショック				まとめプリントを使用して復習しておくこと。	
	5	第4章循環器 総論・検査				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	6	第4章循環器 心筋・弁・中隔・心不全				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	7	第4章循環器 不整脈・末梢血管				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	8	第5章呼吸器 総論・検査				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	9	第5章呼吸器 COPD・間質性肺炎				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	10	第5章呼吸器 癌・循環・横隔膜				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	11	第6章消化器 総論・検査・食道				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	12	第6章消化器 胃・切除胃・腸				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	13	第7章肝胆脾 解剖・生理・腹膜・検査				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	14	第7章肝胆脾 肝炎・肝硬変・膵胆道・腹膜				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	神経内科学Ⅰ								
科目名(英)	Neurological MedicineⅠ								
単位数	2		時間数	30時間		担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年								
授業概要	・作業療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・神経内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・神経内科疾患の症状を理解することで、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。								
授業形式	講義：	○	演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。			
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。			
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。			
	○	○				作業療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。			
	○	○		○		作業療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。			
テキスト・教材 参考図書	教科書：医学書院：標準理学療法学・作業療法学 ～専門基礎分野～ 神経内科学（補助教科書）PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート：医歯薬出版								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	リハの総論。神経内科におけるリハビリ評価方法。					教科書で予習しておく。		
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	脳Ⅻ神経（前編）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	脳Ⅻ神経（後編）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	神経内科の検査方法。筋電図、筋生検、CT、MRIなど					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	意識障害、記憶					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	筋の萎縮、錐体路症状、中枢性麻痺と末梢性麻痺					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	錐体外路と不随意運動					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	失調症の検査と診断					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	高次脳機能障害1（失認、失語、失行）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	高次脳機能障害2（失認、失語、失行）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	嚥下機能、気管切開、胃ろう					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	まとめ①（1回～6回）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	まとめ①（7回～12回）					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	15	総まとめ							
評価方法	(1)定期試験（筆記）を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験（筆記）	◎	◎				100%		
履修上の注意									

科目名	精神医学Ⅰ										
科目名(英)	PsychiatryⅠ										
単位数	2			時間数	30時間		担当者	石井 洋平			
実施年度	2020年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目	医師として病院勤務			
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年										
授業概要	精神科リハビリテーションの実施に際し、精神障害者の理解を深めるために機能障害としての精神症状や、それをもたらす精神疾患の成因や診断、治療について理解する。										
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				精神症状について説明できる。					
	○	○				精神疾患の成因について説明できる。					
	○	○				精神疾患の診断と治療について説明できる。					
テキスト・教材 参考図書	教科書: 標準理学療法学 作業療法学 基礎分野 精神医学: 医学書院										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	精神医学の歴史 本邦と諸外国の歴史および関連科学の発展との関連					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	2	三大精神病と三つの成因 精神病の成因と分類					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	3	精神機能の評価(1)精神医学的診断法について					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	4	精神機能の評価(2) 身体的検査法、心理的検査法 の概念					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	5	統合失調症(1)精神症状と社会生活上における制限の特徴					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	6	統合失調症(2)病型と診断基準					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	7	統合失調症(3)治療法とリハビリテーション					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	8	うつ病(1)気分障害の概念と病型分類					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	9	うつ病(2)症状、経過の特徴、誘因・病因と発症機制					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	10	うつ病(3)治療と援助について					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	11	神経症(1)神経症の種類とそれぞれの臨床的特徴					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	12	神経症(2)治療と援助について					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	13	摂食障害・行動の問題・性の障害					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	14	これまでのまとめ					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。				
	15	まとめ									
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%				
履修上の注意											

科目名	保健医療福祉制度論									
科目名(英)	Medical welfare System									
単位数	2			時間数	30時間		担当者	仲野 悟		
実施年度	2020年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部2年									
授業概要	医療と福祉の制度について学習し、作業療法士として各制度に対する知識を持つことの有用性を理解してもらう。また、これから変化していく各制度の情報に耳を傾け、自ら学習していくといった意識を持つ									
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○					リハビリテーションの診療報酬など作業療法士に関係する医療保険制度を説明できる				
	○					障害者手帳や障害者総合支援法に規定されるサービスを述べることができる				
	○					地域包括ケアシステムを説明できる				
	○					介護保険に規定されるサービスを述べることができる				
テキスト・教材 参考図書	保険と年金の動向 財団法人 厚生統計協会 国民の福祉の動向 財団法人 厚生統計協会 参考文献:「厚生労働省ホームページ」(http://www.mhlw.go.jp/)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	授業の概要					配布資料を使用し復習			
	2	医療保険制度(医療保険の仕組み、保険診療のルール、リハビリテーション料の算定方法)					配布資料を使用し復習			
	3	医療保険制度(医療保険の仕組み、保険診療のルール、リハビリテーション料の算定方法)					配布資料を使用し復習			
	4	リハビリテーション診療報酬					配布資料を使用し復習			
	5	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)					配布資料を使用し復習			
	6	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)					配布資料を使用し復習			
	7	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)					配布資料を使用し復習			
	8	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)					配布資料を使用し復習			
	9	リハビリテーション介護報酬					配布資料を使用し復習			
	10	リハビリテーション介護報酬					配布資料を使用し復習			
	11	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)					配布資料を使用し復習			
	12	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)					配布資料を使用し復習			
	13	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)					配布資料を使用し復習			
	14	年金制度					配布資料を使用し復習			
	15	まとめ					配布資料を使用し復習			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎					100%			
履修上の注意										

科目名	基礎作業学実習Ⅰ						
科目名(英)	Occupation Based OverviewⅠ						
単位数	4		時間数	60時間	担当者	早川 由加里	
実施年度	2020年度		実施時期	前期	担当者実務経験	建施設にて作業療法士として	
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年生						
授業概要	作業療法士が治療として作業活動を用いる際に必要とする、作業の基本的な知識・技術を学ぶ。主に実習形式で作業を体験することで、自分自身そして周囲環境への理解も深めながら、最終的には応用して用いることが出来るようになることを目標とする。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	実技:	
						※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		作業療法で用いる様々な作業に必要な物品について、それぞれの知識や使用する際の技術・注意点について説明ができる。	
	○	○		○		各作業を遂行する上で必要な身体的および心理的機能を説明できる。	
	○	○		○		各作業を遂行する上での周囲の人的および物理的環境との関係を説明できる。	
	○	○		○		グループワークを通して自分自身についての理解を深める。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル資料 長崎重信 監修:作業学 改訂第2版, 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト2, メジカルビュー社, 2015. 中村春基, 他編:レクリエーション改訂第2版 社会参加を促す治療的レクリエーション,三輪書店, 2004.						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、紙細工(講義およびグループワーク)				紙細工のレポート作成を行うこと(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時	
	2	紙細工(グループワーク)、タイルモザイク(グループワーク)				紙細工のレポートを完成させること(1時間)	
	3	タイルモザイク(グループワーク)				タイルモザイクのレポート作成を行うこと(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時	
	4	タイルモザイク(グループワーク)、マクラメ(グループワーク)				タイルモザイクのレポートを完成させること(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時	
	5	マクラメ(グループワーク)				マクラメのレポートを完成させること(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時	
	6	革細工(講義およびグループワーク)				革細工のレポート作成を始めること(1時間)	
	7	革細工(グループワーク)				革細工のレポートを完成させること(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時	
	8	エコクラフト(講義およびグループワーク)				エコクラフトのレポート作成を始めること(1時間)	
	9	エコクラフト(グループワーク)、今までのまとめ				エコクラフトのレポートを完成させること(1時間) 次回作業のプリントや教科書を読んでおくこと(1時	
	10	レクリエーション(講義・グループワーク)				レクリエーションの作成準備を始めること(1時間)	
	11	レクリエーション(グループワーク)				レクリエーション発表準備を進めること(1時間)	
	12	レクリエーション(グループワーク)				レクリエーション発表準備を進めること(1時間)	
	13	レクリエーション(グループワーク)、レクリエーション(発表)				レクリエーション発表後レポート作成を始める事(1時間)	
	14	レクリエーション(発表)				レクリエーションの発表後面談へ向け、反省会を開くこと(1時間)	
	15	全体のまとめ				プリント・教科書の復習を行い、定期試験へ向けての対策を始める事。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				40%
	レポート・発表	○	○		○		60%
履修上の注意	* 授業内容の順番は変更及び前後する場合がある。						

科目名	職業関連活動						
科目名(英)	Occupational Therapy for Vocational Rehabilitation						
単位数	2		時間数	30時間		担当者	渡辺みゆき
実施年度	2020年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	作業療法士として病院勤務
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 2年						
授業概要	障害の有無に関係なく、働くことの意味について考えながら、現在の日本での障害雇用や就労形態、それを支える法制度や支援について学ぶ。また、職業リハビリテーションにおけるOTの役割と現状を知り、今後の就労支援のありかたについて理解を深める。						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				職業の意義の3つの側面について説明することができる。	
	○	○				障害者の就労支援制度について、授業で取りあげたものを列挙することができる。	
	○	○				職業リハビリテーションにおける就労支援機関について主となるものを3つ挙げ、その概要を説明することができる。	
	○	○				職業リハビリテーションに関わる職種の中でのOTの役割特性について説明することができる。	
	○	○		○		障害者就労支援について関心のあるテーマを自ら調べて発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 福岡県社会福祉協議会 編:福岡県障がい者福祉情報ハンドブック2020. 2. 配付資料 3. その他:参考となる文献および情報源は授業で紹介いたします。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、ディスカッション①職業について考える				(予習課題)事前にシラバスを読んでおく	
	2	ディスカッション②働くことの意味について考える および障害者の働く現場の紹介				(予習課題)働くことの意味について、意見を述べられるように考えておく	
	3	人と職業①職業の定義、意義、分類、職業選択②職業的発達と理論				(復習課題)職業の意義、職業選択の際の法的制約、職業発達理論を理解し、覚える	
	4	職業適性①職業興味検査および厚労省編一般職業適性検査実施				(復習課題)それぞれの検査の目的・特徴を確認しておく	
	5	職業適性②各検査結果のまとめおよび職業適性				(復習課題)職業適性検査でわかることと職業適性の意味について確認しておく	
	6	障害者と職業①障害者の定義、職業の意義、就労形態				(予習課題)障害者とはどのような人なのか説明できるように考えておく	
	7	障害者と職業②就労の現状、職業リハビリテーション①歴史・定義				(復習課題)法定雇用率および現状、職業リハの定義を確認しておく	
	8	職業リハビリテーション②法制度、就労支援機関、各種サービス				(復習課題)主要な法制度、就労支援機関およびそのサービスの概要を確認しておく	
	9	職業リハビリテーションとOT①OTの役割、目的、就労リハゴール、評価の領域				(復習課題)OTが働く分野およびそれぞれの役割、リハゴールとしての就労について確認しておく	
	10	就労支援の実際(1)福祉的就労施設における就労支援(※)				(予習課題)福祉的就労支援施設の種類・内容を調べておく	
	11	就労支援の実際(2)発達障害分野における就労支援(※)				(予習課題)発達障害の障害特性について調べておく	
	12	就労支援の実際(3)精神障害分野における就労支援(※)				(予習課題)精神障害の障害特性について調べておく	
	13	就労支援の実際(4)身体障害分野における就労支援(※)、職リハとOT②OTの評価				(予習課題)身体障害の原因の一つである脳血管障害の障害特性について調べておく	
	14	課題発表、まとめ				(予習課題)課題発表と質問に対応できるように準備しておく	
	15	まとめ					
評価方法	(1)発表およびレポートを各1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					80%
	レポート	○					10%
	発表	○			○		10%
履修上の注意	授業は配付資料を基に進めます。その他、学生同士でのディスカッションや映像資料などの活用、専門分野の特別講師による講義(※)も取り入れます。最終回に個人課題の発表および課題レポートの提出をしてもらいますので、計画的に準備を行ってください。						